

Full-sentence definition (FSD) を採用した新しい日本語辞書作成マニュアル

佐藤 理史 夏目 和子

名古屋大学大学院 工学研究科

2015年10月2日

1 基本ルール	1
1.1 対象とする語	1
1.2 見出し語	1
1.3 ターゲット	1
1.4 日本語 FSD (full-sentence definition)	1
1.4.1 日本語 FSD の構成	1
1.4.2 前件部	2
1.4.3 後件部	2
1.4.4 必須要素の典型例とクラス	3
1.5 符号の使い方	3
1.6 定義に用いる語彙について	4
1.7 語義の体系と提示順	4
1.8 作業の手順	5
2 定義文型：品詞別	6
2.1 名詞	6
2.1.1 サ変名詞：名詞スル	6
2.1.2 動詞由来の名詞	7
2.1.3 階層で示す名詞	8
2.1.4 形容詞的な名詞	10
2.1.5 その他の一般名詞	11
2.2 動詞	11
2.3 イ形容詞	14
2.4 ナ形容詞	14
2.5 副詞	15
3 参考辞書等	18
4 コーパス、ツール等	19

1 基本ルール

本辞書の見出し語は、基本語以外の内容語を対象とする。定義文（語釈）は、日本語 FSD (full-sentence definition) で記述する。

1.1 対象とする語

旧日本語能力試験出題基準の語彙表で1級に位置付けられている内容語を対象とする。品詞は、名詞、動詞、形容詞（イ形容詞とナ形容詞）、副詞の4種類とする。

1.2 見出し語

（活用する）見出し語の語形には、伝統的な形式、すなわち、動詞とイ形容詞は終止形、ナ形容詞は語幹を採用する。見出し語は【巧妙】のように【】で囲んで示す。

1.3 ターゲット

一つの見出し語の下に、いくつかのターゲットを設定する。ターゲットとは、定義対象とする形式・表現などのことである。次のようなものをターゲットとする。ターゲットは《巧妙な》のように《》で括って示す。

1. 見出し語(それ自身) 例：【語源】《語源》
2. 見出し語の活用形・派生形例：【巧妙】《巧妙な》《巧妙だ》《巧妙に》
3. 見出し語を用いた典型的な表現例：【好評】《好評を博する》

1.4 日本語 FSD (full-sentence definition)

COBUILD の FSD (full-sentence definition) に倣った、完全な文による定義。見出し語がどのように使用されるかについての情報（格要素・典型的な修飾語・同被修飾語など）を明示することができる。

1.4.1 日本語 FSD の構成

日本語 FSD は、前件部と後件部から成り、定義全体がひとつの完全な文を構成している。

【凝る】	(見出し語)
〈肩・腰など〉が《凝る》とは、	(前件部)
〈肩・腰など〉の筋肉がかたくなるということ。	(後件部)

1.4.2 前件部

前件部では、語義を特定する上で必要な要素を典型的な語順で配した文型を示す。文型の中心となる《ターゲット》とその〈必須要素〉を明示する。必須要素には、ターゲットの表現形式・用法に応じて、修飾語・被修飾語・格要素（補足語句）などがある。その典型的な語句（コロケーション・選択制限）またはクラス（上位語など）を、以下の例のように〈〉で括って示す。格助詞は〈〉に含めない。クラスの詳細な説明などは1.4.4を参照のこと。

1. 見出し語：【工学】《工学》とは、
2. 名詞用法：【コメント】〈記事・ブログなど〉の《コメント》とは、
3. 連体修飾用法：【巧妙】《巧妙な》〈方法・手段など〉とは、
4. 連用修飾用法：【巧妙】〔〈誰か〉が〈何か〉を〕《巧妙に》〈行う〉とは、
5. 述語用法：【察する】〈人〉が〈危険・意味など〉を《察する》とは、
6. 慣用句表現：【裂ける】《口が裂けても》〈言えない・言ってはいけない〉とは、

1.4.3 後件部

後件部では、ターゲットの部分を平易な言い換え語句および説明に置き換えて記述する。複数の言い換え語句を示す場合は、{・}で括る。以下の例は、1.4.2で示した前件部とそれに対応する後件部の記述。〈〉で括った必須要素の中で、典型例に付した「など」は省略する。

1. 【工学】《工学》とは、
〈学問〉の分野のひとつ。数学・化学・物理学などの基礎科学を、様々な分野の〔技術・設計・生産・評価など〕に応用する〈学問〉のこと。
2. 【コメント】〈記事・ブログなど〉の《コメント》とは、
〈記事・ブログ〉に〔寄せられた・書き込まれた〕〔意見・感想〕のこと。
3. 【巧妙】《巧妙な》〈方法・手段など〉とは、
ある目的のために、よく工夫された〈方法・手段〉のこと。
4. 【巧妙】〔〈誰か〉が〈何か〉を〕《巧妙に》〈行う〉とは、
〔〈誰か〉が〈何か〉を〕〔みごとに・うまく〕〈行う〉ということ。
5. 【察する】〈人〉が〈危険・意味など〉を《察する》とは、
〈人〉が〈危険・意味〉〔に気付く・が分かる〕ということ。
6. 【裂ける】《口が裂けても》〈言えない・言ってはいけない〉とは、
〔何があっても・絶対に〕〈言えない・言ってはいけない〉ということ。

1.4.4 必須要素の典型例とクラス

語義を特定する上で必要な要素の中で、格要素、修飾語、非修飾語などの必須要素は、〈〉で括って明示する。必須要素には、ターゲットに対応する語句の抽象的なクラスを提示する場合と、高い頻度のコロケーション語句の典型例、またはその上位語を提示する場合がある。それらの抽象度や役割によって以下のように使い分ける。

1. 抽象度が高いクラスを提示する。

(a) クラス名を表記する。

例：〈人〉〈もの〉〈こと〉〈物事〉〈場所〉〈行い〉〈行う〉など

(b) 疑問表現で表記する。

例：〈誰か〉〈何か〉〈どこか〉〈いつか〉

(c) 不特定表現で表記する。

例：〈ある人〉〈あること〉〈あるもの〉〈ある行い〉〈ある時〉〈ある場所〉

(d) 指示代名詞で表記する。

例：〈それ〉〈その人〉〈そこ〉など

(e) ラベルで表記する。

例：〈A〉と〈B〉を《交互に》〈行う〉

(f) 複数であることを明示する。

例：〈人々〉

2. 具体的なクラス（コロケーション語句の上位語）を提示する。

例：〈ことば〉〈スポーツ〉〈作品〉〈料理〉〈地名〉〈伝える〉〈変える〉〈扱う〉〈良い〉〈悪い〉
など

3. 頻度の高いコロケーション語句を提示する。

例：《口述》を〈筆記する〉

4. 上記を組み合わせて用い、後件部でクラス名や具体的なクラスのみ表示することができる。

例：〈何か：人・物・境界線など〉が《後退する》とは、〈何か〉の位置がうしろへ動くということ。

例：〈人々〉が〈場所：町・通り・地名など〉を《行進する》とは、〈人々〉が列を作って〈場所〉を進むということ。

1.5 符号の使い方

隅付き括弧 【】 見出し語

二重山括弧《》ターゲット

山括弧〈〉 語義を特定する上で必要な要素：格要素、修飾語、被修飾語

〈述語の格要素〉＊格助詞は〈〉に含めない。

〈典型的な被修飾語 (=体言) またはそのクラス〉

〈典型的な被修飾語 (=用言) またはそのクラス〉

〈典型的な述語またはそのクラス〉

〈典型的な修飾語またはそのクラス〉

波括弧と中黒 {X・Y} {A・B・Cなど}

並列要素。X、または、Y。

波括弧と中黒 {A・B・Cなど}

並列要素。A、または、B、または、C。

波括弧とパイプライン {a | b} {A | B}

要素の組み合わせ。a A、または、b B。 例) 〈ものごと〉 {が | を} {良くなる | 良くする}

丸括弧 (X)

省略可能。X (Y) = {X・XY}

1 語程度のオプション。例) 《講習 (会)》 = 《講習》、または、《講習会》

角括弧 [X]

- ・付加的説明全般。
- ・連用修飾用法において、ガ格、ヲ格などの補足語を示す。
- ・ [=X] 属性の説明。 例) 〈誰か [=ある物事の関係者]〉

1.6 定義に用いる語彙について

後件部は、原則として旧2級以下の語彙で記述する。

- ・定義文型で用いる必要があるものはリスト化する。級外語彙は別途語釈をつける。

1 級：事柄・行為 級外：総称

- ・ターゲットの言い換え部分に、旧2級以下の語彙以外を用いる時は、旧2級以下の語彙を用いた説明を併記する。
- ・ターゲットの説明の部分は、旧2級以下の語彙で記述する。

1.7 語義の体系と提示順

1. ターゲットが見出し語と同形の語義、必須要素が少ない文型の語義、汎用性の高い語義、典型的な語義、頻度の高い語義、などを語義番号1とする。

2. ターゲットが異なるものは、語義番号 2, 3 … などで区別する。
3. ターゲットが同じで、必須要素（コロケーションを含む）によって明らかに語義が異なるものは、語義番号 2, 3 … などで区別する。明らかに語義が異なるものには、比喩的な意味の拡張も含まれる。
3. ターゲットが同じで、コロケーションによって、微妙に語義が異なる場合は、語義番号にアルファベットを組み合わせて下位分類する。
例：1a, 1b …
4. その他のルールは品詞毎に定める。

1.8 作業の手順

1. 旧日本語能力試験の出題基準の語彙表のうち、旧 1 級に位置付けられている内容語（名詞、動詞、形容詞（イ形容詞・ナ形容詞）、副詞）を見出し語とする。見出し語は、動詞とイ形容詞は終止形、ナ形容詞は語幹を採用する。
2. 既存の辞書で、見出し語の意味と用例を調べて参考にする。→3 参考辞書等
3. コーパスで用例を調べる。→4 コーパス・ツール
4. 調査結果に基づいて、採用すべきターゲットと定義文型を定め、それに対する後件部（言い換え・説明）を記述する。後件部は、できるだけ旧 2 級以下の語彙で記述する。
5. これらの作業を通して、適宜、FSD 作成ガイドラインを更新・修正するとともに、それまでに作成した FSD を見直して修正する。

2 定義文型：品詞別

日本語 FSD を用いた辞書の定義文型を、見出し語の品詞別に提示する。

2.1 名詞

名詞は「事態性」「階層性」「指示対象の属性」などを利用して定義する。

動詞的な名詞は「事態性」を利用して定義することができる。動詞的な名詞には、サ行変格活用動詞の語幹であるサ変名詞がある。これを「サ変名詞：名詞スル」と呼ぶ。また、意味的に動詞および動詞の項が存在する名詞を「動詞由来の名詞」とする。

百科事典的な名詞（モノや概念を表わす名詞）のうち、上位概念（類）と下位概念（種）を用いて定義できる名詞を、「階層で示す名詞」と名付ける。また、抽象名詞で、全体・部分・そのうちの一つなどの区別で定義できる名詞も、「階層で示す名詞」とする。

「指示対象の属性」を利用して定義できるのは、状態・状況を表す名詞で、ここでは「形容詞的な名詞」と呼ぶ。

2.1.1 サ変名詞：名詞スル

サ変名詞は、動詞形（スル形）と名詞形の両方を提示する。基本的に、第 1 語義の定義文型のターゲットは述語用法で提示する。名詞形の語義の多くは「行為」を表し、動詞形と同じ意味である。自動詞の場合は、「状況の変化」を表し、動詞形と同じ意味である。名詞形だけが表す意味として、内容、行為者、心情、などが見受けられる。

・動詞形「○○する」と名詞形「○○をする」をまとめて提示することで、同じ意味であることを強調できる。

【後悔】〈人〉が《後悔（を）する》とは、

〈人〉が [自分の行い {を・について}] {失敗した・残念だ} と思うということ。

・「状況の変化」を表す例

【向上】〈ものごと〉が《向上する》とは、

〈ものごと〉の {質・程度など} が {高くなる・良くなる} ということ。

【向上】〈ものごと〉の《向上》とは、

〈ものごと〉の {質・程度など} {が | を} {良くなる | 良くする} こと。

・名詞形が「内容」を表す例

【口述】《口述》を〈筆記する・まとめるなど〉とは、

{[声に出した] 言葉・話した内容} を〈筆記する・まとめるなど〉ということ。

【コメント】〈気持ち：お礼・喜び〉の《コメント》とは、

〈気持ち〉を表す短い {スピーチ・メモ} のこと。

・名詞形が「イベント」を表す例

【公演】〈誰か〉の《公演》とは、

〈誰か〉が {出演する・出る} {発表会・コンサート} のこと。

・名詞形が「行為者」を表す例

【コーチ】[〈誰か〉の] 〈スポーツなど〉の《コーチ》とは、

{[誰か] に} 〈スポーツ〉を教える人のこと。

・名詞形が「心情」を表す例

【後悔】《後悔》が {ある・ない・残る} とは、

{失敗した・残念だ} という気持ちが {ある・ない・残る} ということ。

2.1.2 動詞由来の名詞

動詞由来の名詞は、動詞の連用形が名詞化したもの（連用名詞）の他に、事態性のある名詞がある。すなわち意味的に動詞および動詞の項が存在する名詞である。それらの動詞と項の関係が明らかになるような定義文型を目指す。必要な項が含まれていない場合は、ラベルを補う。連体修飾節で定義する定義文型は保留とする。尚、2番目以後の語義には、他のターゲットの表現・用法や、階層性で示す定義文型も用いる。

<語の中に含まれている動詞と項を明示する>

【落ち葉】《落ち葉》とは、

{[枯れて] 木から落ちた葉} のこと。

【織物】《織物》とは、

糸を {織った・縦横に通して布にした} 物のこと。

<ラベルを補う>

・〈現象〉

【洪水】《洪水》とは、

〔大雨などで〕川の水が〔増える・あふれる〕〈現象〉のこと。

・〈人〉

【嘘つき】〔よく〕〔嘘をつく・真実ではないことを言う〕〈人〉のこと。

・〈行為〉

【逆立ち】《逆立ち》とは、

〔人など〕が〔足を上げて手を地につけて〕逆さに立つ〈行為〉のこと。

【詐欺】《詐欺》とは、

〈人〕が〔誰か〕に〕うそをついて損害を与える〔違法〕〈行為〉のこと。

・〈状況〉

【錯誤】〈記憶・認識など〉(の)《錯誤》とは、

〈記憶・認識〕が〔事実と違う・一致していない〕〈状況〉のこと。

例：患者には記憶錯誤が見られます。

<言い換え語だけでなく、連用名詞のもとの動詞も明示する>

【叫び】〈誰か〕の《叫び》とは、

〈誰か〕の〔叫ぶ声・叫び声・大きな声〕のこと。

<連用名詞のもとの動詞を明示し、必要であればラベルを補う>

・〈事柄〉

【心得】〈ある行為〕の《心得》とは、

〈その行為〕をする時に〔心得るべき・気をつけるべき〕〈事柄〕のこと。

2.1.3 階層で示す名詞

階層で示すことのできる名詞の定義文型におけるターゲットは、基本的には見出し語（それ自身）とする。下記のように、見出し語よりも上位の概念（類）、見出し語の具体例、見出し語よりも下位の概念（種）などを組み合わせて定義する。抽象名詞は、全体・部分・そのうちの一つな

どの区別を用いた定義文型は保留とする。

- ・上位の概念（類）を使って定義する
文型：〈類〉の {種類・区分・分野・分類・単位など} のひとつ。
- ・具体例を使って定義する
文型：A、B、Cなどが含まれる。
- ・下位の概念（種）を使って定義する
文型：A、B、Cなどの総称。

【昆虫】《昆虫》とは、

〈虫〉の分類のひとつ。頭・胸・腹・6本の足を持つ〈虫〉のこと。チョウ・アリ・セミなどが含まれる。

【光熱費】《光熱費》とは、

生活に必要な〈費用〉の種類のひとつ。電気料金・ガス料金・灯油代などの総称。

〈抽象名詞の定義文型〉（保留）

- ・抽象名詞で、全体・部分・そのうちのひとつなどの区別を用いて定義する。

文型：○○そのものを指し示す表現

○○全体のこと

○○の集合のこと

【語彙】

1. 《語彙》とは、

[ある体系の中の] {語・語の集合} のこと。

例：新しい語彙を習得する。基本語彙のリスト。

2a. 〈分野・言語・本など〉の《語彙》とは、

〈分野・言語・本〉で使われている語の全体のこと。

例：日本語の語彙と文法。万葉集の語彙。

2b. 〈ある人〉の《語彙》とは、

〈その人〉が知っていて使うことができる語の {数・全体} のこと。

例：子どもの語彙を増やす。彼は語彙が豊富だ。

3a. 《〈X〉という語彙》とは、

〈X〉という語そのものを指し示す表現。

例：「哲学」という語彙は誰が最初に使いましたか？

2.1.4 形容詞的な名詞

形容詞的な名詞の定義文型におけるターゲットは、基本的には、接辞「の」「的な」などが後続して名詞を修飾する（指示対象の属性を表す）連体修飾用法である。「の」が省略されて複合名詞になっても意味が変わらない場合が多い。接辞「に」「的に」が後続して連用修飾用法が可能な語もある。何かの状態・状況を表す実体のない名詞なので、被連体修飾語として用いられる場合がある。ナ形容詞との違いは明確ではなく、属性形容詞として述語用法が可能な場合がある。接尾辞「化」と結びつき、状態変化を表すサ変名詞のようになる場合がある。位置などを表す語は、比喩的に用いられる場合がある。慣用句表現も多い。語義認定のためには、コロケーションを注意深く見る必要がある。*UniDicでの品詞表示は「名詞-普通名詞-形状詞可能」のものが多い。

・連体修飾用法の例

【国有】《国有》（の）〈企業・土地・財産など〉とは、
国が所有し管理している〈企業・土地・財産〉のこと。

【根本】《根本的な》〈解決・対策・治療など〉とは、
[一時的・表面的ではない] 本当に効果がある〈解決・対策・治療〉のこと。

・連用修飾用法の例

【個別】[〈人〉が]《個別（的）に》〈何か〉を〈行う・扱うなど〉とは、
[〈人〉が] それぞれ別々に〈何か〉を〈行う・扱う〉ということ。

・被連体修飾語の例

【好意】〈誰か〉の《好意》とは、
〈誰か〉の親切的な気持ちのこと。

【根本】〈何か〉の《根本》とは、
〈何か〉の基礎になっている重要な部分のこと。

・述語用法の例

【好況】〈世界・国など〉が《好況だ》とは、
〈世界・国〉の景気がよいということ。

・接尾辞「化」と結びついた例

【国有】〈何か〉の《国有化》とは、

〈何か〉の所有者を、民間から国に変更すること。

【個別】〈何か〉を《個別化する》とは、

〈何か〉を別々のものとして扱うということ。

・位置を表す語の比喩的な表現

【根底】〈あること〉を《根底から》〈変える：覆す・否定する・壊すなど〉とは、

〈あること〉を完全に〈変える〉ということ。

・慣用句表現

【旧態】《旧態依然 {の・とした・たる}》〈何か：人々・団体・考え・方法・制度など〉とは、

〈何か〉が変化・進歩していないことを〔批判的に〕いう表現。

例：経営者たちの旧態依然とした考えが問題なのだ。

2.1.5 その他の一般名詞

保留とする。

2.2 動詞

動詞の定義文型におけるターゲットは、基本的には述語用法である。自動詞は主に、ガ格の補足語の類別で語義を分ける。他動詞は、ヲ格や二格の補足語の類別で語義を分ける。典型的な語義と発展的な語義（比喩など）は区別する。連体修飾用法や慣用句表現も記述する。

・述語用法（自動詞）

【栄える：さかえる】

1. 〈文化・文明・産業など〉が《栄える》

〈文化・文明・産業など〉が盛んになること。

例：ここで栄えた文明はもう残っていない。

2. 〈国・地域など〉が〔〈何か〉{で・として}]《栄える》とは、

〈国・地域など〉が〔〈何か〉{で・として}] 人々が集まり賑やかになること。

例：大阪は古くから商人の町として栄えた。

3. 〈人々・生物など〉が《栄える》とは、

〈人々・生物〉の子孫が増えて強くなること。

例：一年の始めに一家が栄えることを祈ります。

・ 述語用法（他動詞）

【心掛ける：こころがける】

1. 〈人〉が〈どうする・どうしない〉ように《心掛ける・心掛けている》とは、

〈人〉が〈どうする・どうしない〉ように〔気をつける・(いつも)努力する〕こと。

例：試験前は風邪をひかないように心掛けなさい。私はできるだけ階段を使うように心掛けている。

2a. 〈人〉が〈良い行為：安全運転・節約・挨拶など〉〔を・に〕《心掛ける》とは、

〈人〉が〈良い行為〉をするように気をつけること。

例：私はいつも働き易い環境作り*を心掛けている。水の節約に心掛けましょう。

2b. 〈人〉が〈良い物事：交通安全・健康生活〉〔を・に〕《心掛ける》とは、

〈人〉が〈良い物事〉を目指して努力すること。

例：私はいつも感じのよい服装を心掛けた。

・ 連体修飾用法

【凝る】《凝った》〈作品・料理など〉とは、

十分に工夫された〈作品・料理〉のこと。

・ 慣用句表現

【捧げる】〔〈人〉が〈神など〉に〕《祈りを捧げる》とは、

〔〈人〉が〈神など〉に〕心から熱心に祈ること。

・ 典型的な語義と発展的な語義

【込める：こめる】

1. 〈人〉が〈銃など〉に〈玉〉を《込める》とは、

〈人〉が〈銃〉に〈玉〉を詰めること。

例：銃に弾丸を2発込めた。

2. 〈人〉が〈何か〉に〈心・気持ち・意味など〉を《込める》とは、

〈人〉が〈何か〉を工夫して〈心・気持ち・意味〉が伝わるようにすること。

例：この歌には恋人への愛が込められている。

＊補足語のコロケーションによってターゲットの言い換え表現が（微妙に）異なる場合は、次のいずれかの方法を採用する。

(a) まとめて（抽象的）な説明的後件部を作る。

【こじれる】

1. 〈話し合い・関係など〉が《こじれる》とは、
〔人と人との意見が合わず〕〈話し合い・関係〉が悪い方へ進んでしまうこと。
例：夫婦関係がこじれたので裁判所に相談する。

(b) 語義を分ける。

【冴える：さえる】

1. 〈色・光・音・味など〉が《冴える》とは、
〈色・光・音・味〉が〔鮮やかになる＊・輝く・はっきりする〕こと。
例：気温が下がると紅葉の色がっそう冴える。
2. 〈感覚・意識：目・耳・頭・脳・勘など〉が《冴える》とは、
〈感覚・意識〉が〔鋭い・はっきりした〕状態になること。
例：夜になっても目が冴えて眠れない。今日は勘が冴えているので全問正解できそうだ。
3. 〈人〉の〈技・力：演出・推理・腕・判断力など〉が《冴える》とは、
〈人〉の〈技・力〉が〔うまく働く・発揮される〕こと。
例：職人の技が冴える日本料理。

(c) 慣用語句として扱う。

【差し出す：さしだす】

1. 〔人〕が〔物・手など〕を《差し出す》とは、
〔人〕が〔物・手など〕を相手の〔方に出す・前に置く〕こと。
例：記者が意見を求めてマイクを差し出してきた。
4. 〔人〕が〔誰か〕に《〔手・右手〕を差し出す》とは、
〔人〕が〔誰か〕に〔握手を求めるということ〕。

2.3 イ形容詞

イ形容詞の定義文型におけるターゲットは、連体修飾用法、述語用法、連用形の活用で連用修飾用法がある。心情形容詞は、これらとは異なる定義文型を採用する。

・連体修飾用法の例

【渋い】《渋い》〈色・声・デザインなど〉とは、
{落ち着いた・深い・地味な} 〈色・声・デザイン〉のこと。

・述語用法の例

【しぶとい】〈人・物〉が《しぶとい》とは、
〈人・物〉がかんたんに {負けない・諦めない・死なない} 性質だということ。

・連用修飾用法の例

【素っ気ない】[〈人〉が] 〈誰か〉に《そっけなく》〈言う・答えるなど〉とは、
[〈人〉が] 〈誰か〉に {短いことばで・感情を表さないで} 〈言う・答える〉ということ。

・心情形容詞の例

【心細い】[〈人〉が] 《心細い》とは、
[〈人〉が] {さびしい・不安だ} と {思う・感じる} ということ。
【切ない】〈何か [をすること]〉が《切ない》とは、
〈何か [をすること]〉がとてつらいと {思う・感じる} ということ。
例：もうすぐお別れだと思うと切ないです。

2.4 ナ形容詞

ナ形容詞の定義文型におけるターゲットは、連体修飾用法、述語用法、連用形の活用で連用修飾用法がある。漢語は、形容詞的な名詞として名詞用法もある。

・連体修飾用法の例

【しとやか】《(お) しとやかな》〈女性・性格・動作〉とは、
上品で静かな 〈女性・性格・動作〉のこと。
【詳細】《詳細な》〈調査・報告・記録など〉とは、

丁寧で詳しい〈調査・報告・記録〉のこと。

・ 述語用法の例

【真実】〈あること〉が《真実だ》とは、
〈そのこと〉が [うそではない] 本当のことであるということ。

・ 連用修飾用法の例

【雑】[〈人〉が〈何か〉を]《雑に》〈扱う・する〉とは、
[〈人〉が〈何か〉を] {粗末に・乱暴に} 〈扱う・する〉ということ。

・ 漢語の名詞用法の例

【詳細】〈何か〉の《詳細》とは、
〈何か〉の {細かいところ・詳しい点} のこと。
例：調査結果の詳細はホームページで公表しています。

2.5 副詞

副詞の定義文型におけるターゲットは、連用修飾用法が基本となる。接辞が付いて連体修飾用法になるものもある。特定の表現と呼応する副詞、オノマトペなどは、それぞれ定義文型を工夫する必要がある。慣用句表現も適宜採用する。

・ 連用修飾用法の例

【しょっちゅう】[〈人〉が〈何か〉を]《しょっちゅう》〈行う：言う・見る・使うなど〉とは、
[〈人〉が〈何か〉を] {いつも・日常的に・何度も} 〈行う〉ということ。
【極めて】[〈何か〉は]《極めて》〈どうだ：重要だ・困難だ・高いなど〉とは
[〈何か〉は] {とても・ひじょうに} 〈どうだ〉ということ。

・ 連体修飾用法の例

【かつて】《かつての》〈何か〉とは、
昔の〈何か〉のこと。
【予て】《かねての・かねてからの・かねてよりの》〈希望・計画・約束など〉とは、
{以前の・ずっと前からの} 〈希望・計画・約束〉のこと。

<述語の否定形と呼応する「程度の副詞」>

【さほど】《さほど》〈どうではない：難しくない・大きくない・悪くないなど〉とは、
{たいして・あまり}〈どうではない〉ということ。

例：母はここからさほど離れていないところに住んでいます。

【さほど】《さほど [の]》〈差・影響・意味など〉は〈ない〉とは、
特に大きな〈差・影響・意味〉が〈ない〉ということ。

例：5分くらいの遅刻なら、さほど問題はないでしょう。

<文末の「ムード」の表現と呼応する「陳述の副詞」>

・概言（真とは断定できない知識を述べるムード）と呼応する例

【さぞ】〈誰か〉は《さぞ》〈どうする・どうだ：驚く・喜ぶ・困る・辛い・嬉しいなど〉〈だろろう・
にちがいないなど〉とは、

〈誰か〉は {きっと・どんなにか} 〈どうする・どうだ〉〈だろろう・にちがいない〉ということ。

例：突然の知らせに、彼はさぞ驚いたにちがいない。長い旅でさぞ疲れたでしょう。

【さぞ】〈何か〉は《さぞ》〈美しい・美味しい・立派など〉〈だろろう・にちがいない〉とは、
〈何か〉は {きっと・どんなにか} 〈美しい・美味しい・立派〉〈だろろう・にちがいない〉とい
うこと。

例：春になって桜が咲いたら、さぞきれいでしょうね。

・比況（ある事態を性質の類似した別の事態で特徴づけるムード）と呼応する例

【さも】〈人〉が《さも》〈どうである：正しい・知っているなど〉〈(かの) ように〉〈行う〉とは、
〈人〉がまるで〈どうである〉〈(かの) ように〉〈行う〉ということ。

例：彼は初めて聞いたことでも、さも知っていたかのように話す。

・従属節において条件・譲歩の表現と呼応する例

* 「S」は、そこに文が入ることを意味する。

【仮に】《仮に》〈S- {なら・だったら・だとすればなど}〉〈S〉とは、
もし 〈S- {なら・だったら・だとすれば}〉〈S〉ということ。

例：仮にこの案が実現したなら、たくさんの人が喜ぶだろう。

【仮に】《仮に》〈S- {ても・でも}〉〈S〉とは、

たとえ 〈S- {ても・でも}〉〈S〉ということ。

例：この案は仮に可能だとしても、ずいぶんお金がかかるだろうね。

<オノマトペ副詞>

・オノマトペの類義語で言い換えを示す時は、オノマトペ以外の語句または説明等を併記する。

【きっぱり】〔〈人〉が〈何か〉を〕《きっぱり（と）》〈やめる・別れる・捨てるなど〉とは、
〔〈人〉が〈何か〉を〕〔完全に・すっかり〕〈やめる・別れる・捨てる〉ということ。

・オノマトペには副詞スルの形で連体修飾用法になるものがある。

【きっぱり】《きっぱりした》〈態度など〉とは、
自分の意思を〔はっきり・明確に〕示した〈態度〉のこと。

【きちっと】《きちっとした》〈やり方・人など〉とは、
〔正しい・まじめな〕〈やり方・人〉のこと。

・オノマトペには、ターゲットが完結した発話になる用法がある。

【がっかり】「〈がっかり〉。」という発話は、
「失望して元気がなくなった、がっかりした」という気持ちを〔ひと言で〕いう表現。

3 参考辞書等

John Sinclair, editor. *COBUILD Advanced Dictionary of English*, 7th Edition. National Geographic Learning, 2012.

デジタル大辞泉 <http://japanknowledge.com/contents/daijisen/index.html>

『岩波国語辞典』第7版新版, 岩波書店, 2011.

『三省堂例解小学国語辞典』第3版新版, 三省堂, 2006.

『三省堂国語辞典』第7版, 三省堂, 2014.

『明鏡国語辞典』第2版新版, 大修館書店, 2010.

飛田良文、浅田秀子著 『現代形容詞用法辞典』東京堂出版, 1991.

飛田良文、浅田秀子著 『現代副詞用法辞典』東京堂出版, 1994.

飛田良文、浅田秀子著 『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版, 2002.

中村明著 『日本語語感の辞典』岩波書店, 2010.

姫野昌子監修 『研究社日本語コロケーション辞典』研究社, 2012.

Sinclair, John M. The lexical item, *In Contrastive Lexical Semantics* ed. by Edda Weigand, Amsterdam: J. Benjamins, pp.1-24, 1998.

石川慎一郎. コロケーションの強度をどう測るかーダイス係数、t スコア、相互情報量を中心としてー, 言語処理学会第14回大会チュートリアル資料, pp.40-50, 2008.

笹野遼平, 河原大輔, 黒橋禎夫. 名詞格フレーム辞書の自動構築とそれを用いた名詞句の関係解析, 自然言語処理, Vol.12, No.3, pp.129-144, 2005.

益岡隆志, 田窪行則. 基礎日本語文法, 改訂版, くるしお出版, 1992.

4 コーパス、ツール等

〈コーパス〉

現代日本語書き言葉均衡コーパス

筑波ウェブコーパス

〈ツール〉

中納言 : KOTONOHA 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」検索アプリケーション

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/login>

NLB: NINJAL-LWP for BCCWJ

名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示できる

<http://nlb.ninjal.ac.jp/>

NLT: NINJAL-LWP for TWC

日本語のウェブサイトから収集して構築した約 11 億語のコーパス『筑波ウェブコーパス』(Tsukuba Web Corpus: TWC)を検索するためのツール

<http://nlt.tsukuba.lagoinst.info/> (2015.4 にサイトの移動あり)

Reading Tutor 「チュウ太の工具箱」

文の難易度を語彙のレベルで判定できる

<http://language.tiu.ac.jp/tools.html>

京都大学格フレーム検索

<http://lotus.kuee.kyoto-u.ac.jp/cf-search/>

京都大学名詞格フレーム

<http://nlp.ist.i.kyoto-u.ac.jp/index.php?京都大学名詞格フレーム>

補足語の頻度リストおよび KWIC のコンコーダンスライン抽出のための Ruby プログラム